|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 令和　年　　月　　日　　時　　分　受理 | | 受付順位 |
|  | |  |
| 提出者に対する質疑通告書  　藤枝市議会議長　　山根　一　様  藤枝市議会議員　９番　石井通春 | | |
| 議案番号 | 質　　　　疑　　　　事　　　　項 | |
| 第45号議案  令和４年度  藤枝市一般会計  補正予算（第4号） | デジタル田園都市構想で目指すものとは  　本予算では、国のデジタル田園都市交付金によって、書かない窓口整備事業費5300万と多機能カーブミラー設置費2000万が示されている。  　この構想は、岸田政権の成長戦略の目玉とされている。「地方を活性化し、世界とつながる」を合言葉にしているが、その中身が本市の本当の成長につながっていない。  　地方は人口減少の時代。それを前提に地方の労働力をデジタルに置き換える事ではなく、地方の人口がなぜ増えないのか、その原因の究明こそ必要である。  　構想の実現会議のメンバーには竹中平蔵氏や経団連副会長などが名を連ねており、次世代高速通信網やデータセンター設置などの大規模公共工事が並んでおり、真の目的は地方をうたい文句とした儲けの手段としていることにある。  　以下、具体的に質問。   1. 本市の人口減少の最大原因は東京圏への流出だが、その原因である賃金格差、また本市の産業を支える中小企業への育成、地域経済再生のかなめである分野に対し田園都市構想の中に施策はあるのか。 2. 「書かない窓口」は住民票の申請が必要なくなるというものだが、一方で署名が必要となる。申請書は住所氏名程度の記載で事足りる、わざわざ5300万もかけて整備する必要性があるのか。同じ予算をかけるなら市民がなぜ住民票を欲している（相続、課税等）のか職員が聞きアドバイスをする「マンパワー」の充実こそ市民の立場に立った窓口ではないのか。 3. 田園都市構想の交付メニューには、「地域通貨」「オンライン診療」「障がい者見守りサービス」など、際限なく示されており、既に本市もいくつか採択されている。公共の福祉で行うべきこうした分野で、デジタルに依拠する手法をこのまま続けていいのか。例えば、災害時、電源が不可となった場合にどう対応できるというのか。検証するときにあるのではないか。 | |